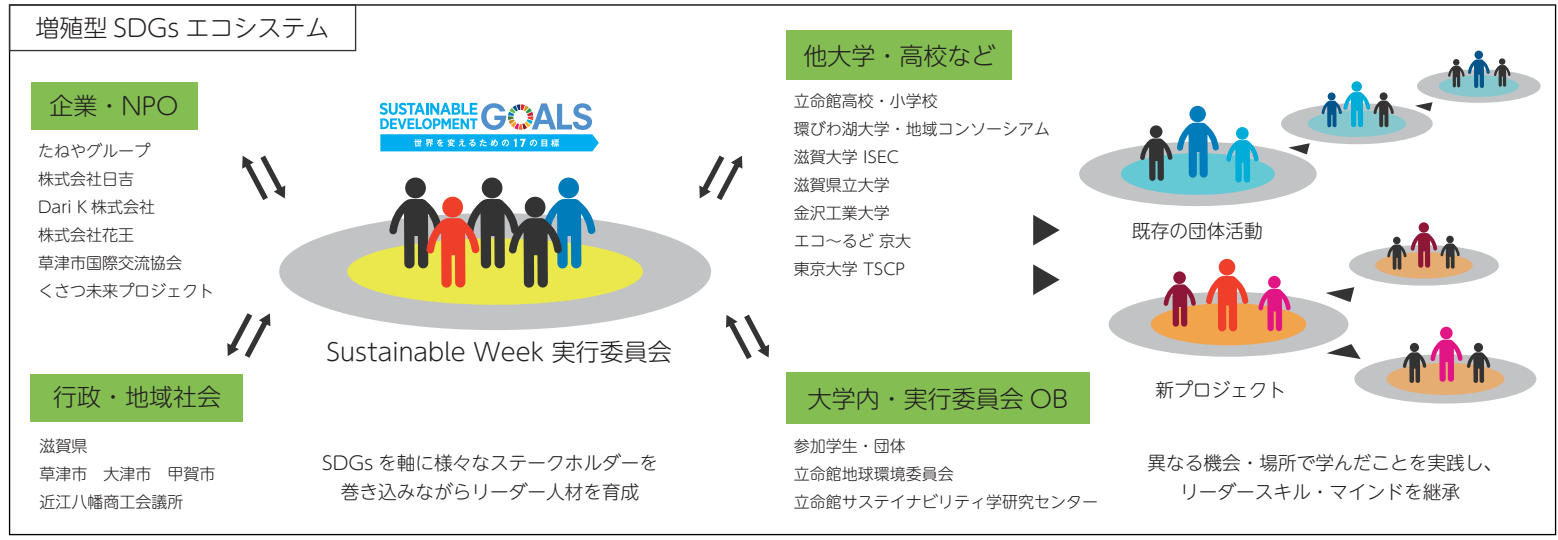


# 次世代リーダーを育成する増殖型 SDGs エコシステムの構築 - Sustainable Week の取り組み -

# 立命館大学 Sustainable Week 実行委員会

## 次世代リーダーを育成する増殖型 SDGs エコシステムの構築

立命館大学 Sustainable Week 実行委員会は、Sustainable Development Goals (SDGs) を軸に、企業・NPO や行政・地域社会、他大学など様々なステークホルダーを巻き込みながら活動している。そこで活躍した学生は、得られた経験を活かし、別の機会や場所で「リーダー」となり学んだことを実践し、新たなチームを創っていく。そして、そのスキルとマインドが次の学生へと広がっていく「増殖型 SDGs エコシステム」の構築を目指す。



## 学生主催による SDGs 体験型イベント Sustainable Week の開催

- **28 団体 700 名の運営 2,300 名の動員**

2017 年 10 月 1 日(日)～6 日(金)に SDGs 体験型イベント Sustainable Week を実施した。立命館大学に所属する 28 の学生団体、約 700 名が企画運営に携わった。開催場所のびわこ・くさつキャンパスのみならず、衣笠キャンパスからの参加団体もあった。学生自身が自ら当事者となって SDGs の 17 の目標を解決するべく、実現に向けて 21 の企画を行った。当日は 10 社以上のメディア、近隣住民を含め約 2,300 名を動員した。

- **キャンパスを小さな地球と見立てた取り組み**

キャンパスを小さな地球と見立て、各団体が SDGs を自分ごととして解釈し、それぞれの個性を活かしながら企画に取り組んだ。今までに活動してきた内容が SDGs の目標に一致している団体以外にも、SDGs の掲げる目標に関心を持ち、新たな活動の一環として、Sustainable Week に参加し活動を行ってきた団体もある。環境に対して興味を持っている学生のみならず様々な立場の学生が協働して活動した。

- **3 つのグループ分けによる連携**

SDGs 17 個の目標は BIOSPHERE・SOCIETY・ECONOMY の 3 つに分類することができる。そこで、この分類に従ったグループを組織した。グループ内での連携を行うことはもちろんのこと、グループ同士で新たな連携を生み出すことに成功した。

- **Sustainable Week の主な目的**
  - ① 立命館大学の学生団体から社会課題解決に向けた取り組みおよび学内外に向けた SDGs の啓発
  - ② 人・社会の変化に対応できるサステイナブルキャンパスの実現
  - ③ 学生が自分自身、所属組織の持続可能について深く考え、自己表現する機会の提供



▲ 企画マップ / 当日配布したパンフレット



▲ 開会式には池永前滋賀県副知事や立命館副総長の松原教授が来賓した  
 ▲ 滋賀県庁職員・立命館職員・立命館大学生で合同ワークショップを行った  
 ▲ 普段は立ち入れないグラウンドで熱気球体験を行った  
 ▲ 毎朝 8 時から健康体操を行い、学内新施設の利用促進にもなった  
 ▲ 近隣住民を含め約 400 名が同時に、932 (くさつ) 個の風船を飛ばした

## SDGs 達成に向けたキャンパスモデルづくり

- **組織の枠を超えた連携**

私たちは、学内の学生サークルや学生団体が自身の問題意識に対し、自身で解決策を考え実践する機会を作る必要があり、その学生オリジナルな視点が社会に対して新しいインパクトを与えるのではないかと考えた。そこで、学生団体が組織の枠を超えて連携し、お互いの強みを活かし合う、Sustainable Week を実施した。こうした SDGs 達成に向けたキャンパスモデルづくりは、次世代の社会の在り方を大学内外に考えさせるきっかけになった。

- **学生団体と大学との関係性向上**

大学内での開催に当たり、各企画団体は立命館大学教職員の方々や施設関係者の方々の協力を得て、企画実施の約 1 年ほど前から順次、当日に向けた場所の選定・交渉、備品使用の手続きなどの準備作業を進め、円滑に活動を行うことができた。このような学生団体と大学との関係性向上もこの Sustainable Week の持つ学内で実施する意義の一つであると考えられる。

## 2018 年度の取り組み — より多くの人へ SDGs の認知を広め、理解を深める —



2018 年度は、社会課題に対して具体的な行動を移す学生を増やすために、より多くの学生へ SDGs の認知を広め、理解をより深めることを目標としている。そのために、10 月の Sustainable Week 開催までに多くの学生や大学の教職員・地域住民の方を巻き込んだイベントを複数開催し、SDGs について知る機会や考える機会を増やした。プレイベント 1 では、立命館大学 3 キャンパスで SDGs ボードゲームを開催し、SDGs を多くの学生へ広めた。立命館地球市民会議では立命館高校と協働し、大学生の SDGs の取り組みを対話形式で伝え、高校生に SDGs を自分ごととして考えてもらう機会とした。プレイベント 2 は株式会社花王との協働で企画し、学生・企業・行政と立場の異なる人が共に SDGs に関連した企画を立案することで SDGs の理解を深めた。大学生だけでなく高校生から社会人まで様々な方々を巻き込むことで、より大きなコミュニティを創造していく。



## Sustainable Week の経験を活かし、次のステージでリーダーとして活躍する学生の声

<p>たくさんの人との出会いで価値観が広がった</p> <p>森田 崇文 理工学部 4 年</p> <p>私が SW (Sustainable Week) に参加してよかったことは、人との出会いです。SW 参加者と共に活動することで、物事に対する捉え方について、自身の価値観が広がりました。おかげで、将来における自身の選択肢が増え、SW は貴重な経験でした。</p>	<p>普段の活動から一歩踏み出すことの大変さ</p> <p>渡邊 里々子 理工学部 4 年</p> <p>Sustainable Week では団体の多くが普段の活動から一歩踏み出した企画を実施しました。そのため普段より作業量が多く、帰宅時間が朝になることは当たり前でした。また、例外的なルールをたくさん作ってしまい、学内の様々な部署の方との調整が大変でした。</p>	<p>SDGs を取り入れた次世代型の環境学習の展開</p> <p>戸籾 隼人 生命科学部 3 年</p> <p>Sustainable Week を経て、自身が運営する環境団体が子どもに向けた環境学習に SDGs を組み込んで展開しています。そこでは地元の問題を取り上げて、子ども・若者・高齢者が共に成長できる次世代に向けた地域創生を行っています。</p>
---	--	---